

四半的しはんまと

宮崎県日南市にちなんし飫肥あびには、古くから「四半的」という弓道きゅうどうが伝わっています。

的までの距離きまりが四間半しけんはん（8・2メートル）、使用する弓矢の長さが四尺半（約1・37メートル）、的の直径が四寸半（約13・6センチ）と全てが「四半」で構成されているため、そう呼ばれています。

本来の弓道では、的までの距離が28メートル、弓の長さは2メートル余り、的は大きいもので1メートルあるため、比べると小ぶりであることがわかるでしょう。また、正座したまま行うという特徴とくちょうもあります。

もともと、飫肥地方の農民たちが自家製の弓で戦いくを助けたことから始まり、防備の訓練として、また農閑期のつかんきの娯楽ごらくとして伝えられてきました。450年余りの歴史があり、日南市の無形民俗文化財に指定されています。

座すわったままできる、比較ひかく的狭いせまスペースでもできるなどの理由から、年齢・性別を問わずに楽しめるスポーツとして、人気が広まりつつあります。

宮崎県と熊本県では、観光地での体験のほか、年間50回ほど公式試合が行われているそうです。精神力を養うため、また、楽しく人と交流するため、機会があれば体験してみるのもいいでしょう。

今日の言葉

楽しみながら伝統を学びましょ

今日の気づき

コメント